

## Manual □ ひらいたひらいた

### Step 1

まずは全員で練習する

#### 【メロディー（ユニゾン）】

- ・音域が広がり跳躍も多いので、最初の段階でよく練習をする。
- ・地声でもいいので、明るく歌う。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

### Step 2

伴奏パートを歌う

#### 【オスティナートの伴奏（ユニゾン）】

- ・テンポが速くならないようにする。
- ・言葉をはっきり歌い、言葉のリズムのおもしろさを感じましょう。

☞オスティナート：同じメロディーをくり返し歌うこと

### Step 3

2つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン） + オスティナートの伴奏（ユニゾン）】

- ・テンポを合わせることを意識して歌う。

### Step 4

3つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン） + オスティナートの伴奏（カノン）】

- ・他声部を聴きながら歌えるようになるまで練習する。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

### Step 5

新しいパートを歌う

#### 【オブリガート（ユニゾン）】

- ・常に高音を保たなければならないため、強い声ではなく、優しく歌うように指導する。
- ・音が下がらないように意識して歌う。

☞オブリガート：メロディーを補助するもう一つのメロディー（助奏）

### Step 6

4つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン）

+ オスティナートの伴奏（カノン） + オブリガート（ユニゾン）】

- ・3つの違う旋律を重ねているので、子どものレベルに応じて扱う。
- ・他声部を聴きながら歌えるようになるまで練習する。

☆ この曲は音域が広くなり、また旋律が3つも重なる曲です。子どもの様子に応じて扱ってください。

☆ 映像では少し早めのテンポで歌っています。歌いやすいテンポで取り組んでください。

☆ うまくいかないときは、はじめに戻って練習しましょう。

☆ テンポを速くしたり、円になって歌うなど、色々な方法で楽しく歌うことができます。

### Level Up

5つに分かれて歌う

#### 【メロディー（ユニゾン）

+ オスティナートの伴奏（カノン） + オブリガート（カノン）】

- ・他声部とどのように重なり合っているのかを聴きながら、歌えるようになるまで練習する。

## Challenge !

- ★ Vol.1、Vol.2 で紹介したわらべうたは、すべてパートナーソングとして同時に重ねて歌うことができます。

# ひらいたひらいた

関東地方のわらべうた

(1) (2) V V

オブリガート  
ひ ら い た アー つ ぼ ん だ アー

メロディ  
ひ ら い た ひ ら い た な ん の は な が ひ ら い た

オスティナート  
ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん だ  
ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん

5 V

れ ん げ の は な が ひ ら い た アー

れ ん げ の は な が ひ ら い た ひ ら い た と お も つ た ら

ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん だ  
だ ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん

9

つ - - ぼ ん だ

い つ の ま に か つ - - ぼ ん だ

ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た つ ぼ ん だ  
だ ひ ら い た つ ぼ ん だ ひ ら い た

# 音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
- ピッチ： 音高（音の高さ）
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
- オブリガート： 助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。
- 不協和音程： 2音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。
- トーンクラスター： 2度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。
- オルガナム： 9世紀から13世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に4度・5度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は2声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1度・4度・5度・8度の完全音程を中心に、3度・6度なども使用された。平行オルガナム、反行オルガナム、自由オルガナムなどがある。

## [出典]

- ・ 目黒惇編 (1983) 『新訂合唱事典』 音楽之友社
- ・ 浅香淳編 (1991) 『新訂標準音楽辞典』 音楽之友社
- ・ 柴田南雄, 遠山一行総監修 (1996) 『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社
- ・ 金澤正剛監修 (2004) 『新編音楽小辞典』 音楽之友社
- ・ 小西友七, 南出康世編集主幹 (2006) 『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

# 参考文献

- ・ フォライ・カタリン, セーニ・エルジェーベト共著 (1975) 『コダーイ・システムとは何か』  
羽仁協子, 谷本一之, 中川弘一郎共訳 全音楽譜出版社
- ・ カルドシュ・パール (1994) 『合唱の育成・合唱の響き』  
羽仁協子監修, 菅原恵利訳 全音楽譜出版社